

## 特集

# 奈良県の広域周遊観光促進に向けた提言 ～計量テキスト分析を活用したアプローチ～

## 1

## 奈良県および周辺地域の観光の現状

### 1. 奈良県における地方創生と観光

現在国を挙げて取り組んでいる地方創生は、「まち・ひと・しごと創生本部」が内閣府に設置され、担当大臣のもと省庁横断的な体制となった2014年9月を起点とすると、取組開始から間もなく8年となる。その地方創生の柱の1つとして考えられたのが観光で、国内外からの観光消費をもとに地域経済を循環させ、持続可能な地域づくりの活力にしていくという考え方方が、我が国の地域社会において定着していった。

奈良県は国際競争力を持つ重化学工業や情報通信業などの集積に乏しく、林業、繊維といった地場産業は衰退、事業所数は減少の一途を辿ってきた。また世界遺産をはじめとした文化・自然遺産に恵まれているものの、その地域資源を有効に活用しているとは言い難い状況であった。その結果、地域経済は衰退のスパイラルにはまり込み、それに並行して県南部・東部地域を中心に人口減少・少子高齢化が急ピッチで進行していった。

こうした状況下、国と歩調を合わせ奈良県の地方創生の中心に観光振興を据えて推進していくことは、苦境脱出の糸口を探るうえで不可欠な施策であり、この8年間は、奈良県にとって官民一体となって地方創生・観光振興につながる新たな取組みを進めてきた期間であったと言える。

### 2. 奈良県および周辺地域での観光客の周遊状況

それではこの間、奈良県の観光はどのように変化し、また奈良県の経済・社会にどのような影響を及ぼしてきただろうか。ここでは「量」と「質」の両面から探ってみたい。

まず「量」においては、主に奈良市内において観光入込客数（日帰り客数と宿泊客数の合計の推

計値）が増加してきた。奈良県が入込客数について、観光庁「観光入込客統計に関する共通基準」に準拠した集計を開始した2011年と、コロナ前の2019年との比較では、入込客数が35%、延べ宿泊客数が34%増加したが、これは周辺自治体で同様の調査を実施している滋賀県、和歌山県、三重県と比べて高い（図表1、図表2）。

もっともこれは、奈良県の観光地としての魅力が評価されたというよりも、大阪府と京都府の観光客の一部が周遊してきた影響が大きいと考えられる。同じ期間（2011年から2019年）に大阪府では延べ宿泊者数が118%、京都府では113%増加している。奈良県は両府に隣接しており、両府からの観光客周遊の影響を他県に比べて受けやすい。奈良県の入込客数は、両府から鉄道で直接アクセスできる奈良市が含まれるエリアに限れば65%増加しているが、他のエリアは20%程度の増加に留まっている。奈良市は世界遺産「古都奈良の文化財」に認定されており、県内随一の観光資源を有しているが、同じく世界遺産「法隆寺地域の仏教建造物群」を有するエリアの入込客数は奈良市と比べて少なく、交通アクセスは奈良県観光にとって極めて重要な要素となっている。

近隣他県の入込客数の状況に目を向けると、状況はやや異なる。滋賀県は、京都府に近い大津地域よりも、大規模なアウトレットパークのある東近江地域、琵琶湖博物館のある湖南地域の増加率が大きい。また和歌山県は、鉄道駅や空港からのアクセスが悪い熊野本宮温泉郷、三重県は同じくアクセスの悪い東紀州地域の増加率が大きい。これらの県は大阪府、京都府、愛知県など都市部からの周遊観光よりも、観光地そのものの魅力が観光客を呼び込んでいるのだろう。

入込客数の状況には地域ごとに様々な要因があ

るだろうが、奈良県全域での観光振興を検討する上で、隣接する和歌山県や三重県の状況は参考になる。奈良県観光においては、大阪府、京都府からの周遊が「量」の面では重要となるが、後述する「質」の面では、県南部と和歌山県、三重県との広域周遊観光に着目することで、新たな展開が期待できると考えられるからである。

**図表1 奈良県と近隣県の入込客数の推移  
(2011年→2019年)**

【単位：千人】	2011年	2019年	増加率
奈良県	33,307	45,022	35%
Aエリア	9,750	16,136	65%
Bエリア	5,171	6,386	23%
Cエリア	15,108	18,771	24%
Dエリア	3,278	3,730	14%
滋賀県	47,357	54,036	14%
大津地域	11,226	12,903	15%
湖南地域	4,561	6,897	51%
甲賀地域	3,103	4,245	37%
東近江地域	6,489	10,822	67%
湖東地域	5,655	6,083	8%
湖北地域	12,080	8,921	-26%
湖西地域	4,243	4,166	-2%
和歌山県	27,617	35,433	28%
高野山	1,176	1,482	26%
加太、友ヶ島、磯ノ浦	906	982	8%
和歌浦、紀三井寺、和歌山城他	4,581	5,922	29%
西有田	882	1,053	19%
煙樹海岸、白崎海岸、道成寺、御坊他	1,074	888	-17%
龍神温泉、護摩壇山	446	646	45%
田辺、中辺路、百聞山、みなべ	1,989	2,069	4%
白浜温泉、椿温泉	2,907	3,449	19%
枯木灘	327	1,080	230%
串本	1,002	1,622	62%
勝浦温泉、湯川温泉	1,437	1,704	19%
熊野本宮温泉郷	983	1,880	91%
新宮瀬崎	952	1,368	44%
海南生石山周辺	2,282	2,715	19%
紀仙郷	3,010	3,434	14%
橋本周辺	2,023	3,518	74%
その他	1,641	1,621	-1%
三重県	35,653	43,040	21%
北勢地域	16,414	19,330	18%
中南勢地域	6,493	6,790	5%
伊勢志摩地域	8,784	11,488	31%
伊賀地域	2,417	3,158	31%
東紀州地域	1,545	2,274	47%

資料出所：奈良県観光客動態調査、滋賀県観光入込客統計調査、和歌山県観光動態調査、三重県観光客実態調査  
(注)自治体によって集計方法に違いがあることから、入込客数はあくまで参考情報とし、増加率で分析している。

### 【補足】

#### ○奈良県

Aエリア：奈良市・生駒市・山添村、Bエリア：大和高田市・大和郡山市・御所市・香芝市・葛城市・平群町・三郷町・斑鳩町・安堵町・川西町・三宅町・田原本町・上牧町・王寺町・広陵町・河合町、Cエリア：天理市・橿原市・桜井市・宇陀市・曾爾村・御杖村・高取町・明日香村、Dエ

リア：五條市・吉野町・大淀町・下市町・黒滝村・天川村・野迫川村・十津川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村

#### ○滋賀県

大津地域：大津市、湖南地域：草津市・栗東市・守山市・野洲市、甲賀地域：甲賀市・湖南市・東近江地域：近江八幡市・東近江市・日野町・竜王町・湖東地域：彦根市・愛荘町・豊郷町・甲良町・多賀町、湖北地域：長浜市・米原市・湖西地域：高島市

#### ○三重県

北勢地域：四日市市・桑名市・鈴鹿市・亀山市・いなべ市・木曽岬町・東員町・菰野町・朝日町・川越町、中南勢地域：津市・松阪市・多気町・明和町・大台町・大紀町、伊勢志摩地域：伊勢市・鳥羽市・志摩市・南伊勢町・度会町・玉城町、伊賀地域：伊賀市・名張市・東紀州地域：尾鷲市・熊野市・紀北町・御浜町・紀宝町

**図表2 全国と近畿2府4県、三重県、愛知県の宿泊者数の推移  
(2011年→2019年)**

【単位：人泊】	2011年	2019年	増加率
全国	417,234,450	595,921,480	43%
奈良県	2,027,900	2,726,320	34%
滋賀県	4,310,460	5,016,150	16%
京都府	14,405,110	30,749,560	113%
大阪府	21,764,630	47,427,510	118%
兵庫県	11,892,580	14,417,170	21%
和歌山県	4,095,810	5,324,320	30%
三重県	7,568,670	8,599,890	14%
愛知県	12,406,940	19,337,740	56%

資料出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」

### 3. 周遊観光と観光消費

次に奈良県観光を「質」の面から見てみる。奈良県の観光消費単価は全国で低位に留まっており、その要因として日帰り客の比率が高いこと、また食事、土産物などの地域資源の魅力不足などがよく引き合いに出される。その課題を解決するため、なら燈花会やMICEの開催、ブランド商品の開発・PRなど様々な施策が講じられているところである。

この観光消費単価を高める1つの方法として、「奈良県北部と中南部」、「奈良県中南部と和歌山県・三重県」との周遊観光の促進が考えられる。観光客が南北に長い奈良県を周遊することは、奈良県内での宿泊需要の喚起につながるほか、これまで1泊が主流の県内での宿泊日数の増加も期待できると思われるからである。

奈良県内の観光客は奈良市内に偏っているが、奈良県は全域が文化・自然遺産の宝庫である。大阪又は京都発着で奈良市とその周辺部を周遊するだけでも奈良県観光の一部を体感できるが、県中南部地域および隣接する和歌山県、三重県は奈良市とは異なる観光資源にあふれています。観光のバリエーションは広がる。さらに和歌山県、三重県を含む広域周遊観光は、奈良県の地方創生・地域活性化という面でも、奈良市周辺部の観光に比べて宿泊を伴う可能性が高い分、経済効果が大きいと思われる。そこで本稿では、奈良県内の周遊観光に焦点を当て、奈良県観光の「量」と「質」を高めていく施策について具体的に検討していく。

## 2 奈良県における周遊観光

### 1. 周遊観光の重要性

奈良県が県内の観光地等で実施しているアンケート調査（2019年）によると、県内で1泊以上宿泊した観光客の発地割合は、関東（36%）、中部（25%）、近畿（15%）の順で、関東からが最も多い。コロナ禍で行動制限が設けられた時期などには近畿の比率が最も高くなつたが、ポストコロナにおいてはコロナ前の傾向が復活・継続するものと思われる（図表3）。

関東からの来訪者が最も多く利用する交通手段は東海道新幹線であるが、奈良県には新幹線の駅がなく新大阪駅や京都駅から移動する必要がある。また、より遠方からの来訪者や外国人が多く利用する航空機についても、伊丹空港や関西国際空港から移動する必要がある。いずれにしても近畿、中部等から自家用車等を利用しない限り、奈良県の観光が主目的であるか否かにかかわらず、奈良の地に足を踏み入れる前に、観光地としてのコン

テンツが充実している大阪府又は京都府を経由する必要がある。そのような理由から、両府を差し置いて奈良県を主目的とする観光は計画されにくくことが奈良県観光の構造的な課題となっている。

コロナ禍では近隣の観光地を巡るマイクロツーリズムが注目され、奈良県においても「いまなら。キャンペーン」の利用などを通じ、県内の地域資源の魅力について多くの人が再認識したことは成果であった。一方で、近隣だけでは観光客数（量）を伸ばすことには限界がある。また遠方や海外からの観光客の観光消費（質）は、マイクロツーリズムの観光客と比べて旺盛である。そのため、ポストコロナにおいて奈良県観光の量と質を高め、地方創生・地域活性化につなげていくには、関東以遠や海外からの観光客を近隣府県から奈良県に呼び込み、これまで以上に長く滞在してもらうための周遊観光の仕組みやルートづくりが重要となる。

図表3 奈良県来訪者の発地割合（2019年）

	奈良県内での宿泊	
	あり	なし
北海道・東北	5%	1%
関東	36%	5%
東京都	16%	2%
神奈川県	8%	1%
その他	12%	2%
中部	25%	11%
愛知県	12%	5%
三重県	2%	4%
その他	11%	2%
近畿	15%	73%
奈良県	1%	22%
大阪府	5%	31%
京都府	2%	7%
兵庫県	5%	9%
和歌山県	2%	3%
滋賀県	1%	2%
中国・四国	9%	3%
九州・沖縄	4%	1%
海外	6%	6%

(注) 四捨五入の関係で合計は一致しない。

資料出所：奈良県観光客動態調査（2019年）

## 2. 県内および周辺部の地域資源の活用

### (1) 文化資源

「文化資源」の概念は幅広く、多様な文化の総体を資源として捉え、よりよい社会の実現のために有効活用していくとの考えから生み出された言葉である。我が国の古代文化発祥の地である奈良県は文化資源の宝庫で、それらを収蔵する博物館等は、他県から人を引き寄せる魅力がある。

奈良国立博物館で毎年秋に開催される正倉院展は、文化観光を目的とした周遊観光にとって絶好の機会となる。これまで奈良国立博物館から奈良県立美術館、奈良県立万葉文化館の周遊は限定的であったが、2022年3月に開村した「なら歴史芸術文化村」が中継点となり周遊が促進されることで、正倉院展来場者の県内周遊が喚起されることを期待したい。

また、奈良県中央部は日本国発祥の地と言われ、この地に創建された長谷寺、室生寺、岡寺、安倍文殊院はいずれも1200年以上の歴史を誇る。こ

れらが特別拝観などで連携する「奈良大和四寺巡礼」も県内周遊観光の核として期待される。

### (2) 世界遺産

奈良県には「古都奈良の文化財」「法隆寺地域の仏教建造物」「紀伊山地の霊場と参詣道」の3つの世界遺産がある。これらは奈良県の周遊観光の重要なコンテンツであるが、現在は「古都奈良の文化財」を日帰り又は1泊で観光するパターンが大半となっている。

「法隆寺地域の仏教建造物」については、民間のDMO法人が日帰り客をターゲットにした体験メニューを開発するなど新たな動きも見られるが、奈良市内からの誘客は限定的である。

「紀伊半島の霊場と参詣道」は、前述の通り和歌山県や三重県の入込客数増加に大きく貢献しているが、奈良県の周遊観光のコンテンツとしては目立った効果は上がっていない。このエリアでは、和歌山県、三重県と一体化した広域周遊を推進すべきであろう（図表4）。

図表4 奈良県の周遊観光に関連する世界遺産と主な観光資源



写真提供：奈良まほろばソムリエの会 専務理事 鉄田憲男氏

### 3. 奈良県及び周辺県の観光客の周遊

#### (1) 地域別の周遊状況

奈良県及び周辺県の人の流れはどうなっているのであろうか。ここでは、地域経済分析システム(RESAS)の観光マップのメニューである「目的地分析」を取り上げる。このメニューでは、株式会社ナビタイムジャパンで経路検索された件数の多い目的地が、地図上に赤い点で表示される。各々の点はビッグデータとして経路検索の回数など様々な情報を保有しており、ポストコロナの観光戦略を検討する上で重要なデータになる。なお、「テーマパークは自宅から目的地として検索されやすいこと」、「観光地の名称で直接検索される頻度には多寡があること」、「検索結果であり実際の訪問件数ではないこと」などの要因から、このデータは実際の人の流れとはズレがあると思われる。ここでは、このようなズレが発生しており結果はおおまかな傾向であることを踏まえた上で、奈良県、和歌山県、三重県の主な観光地の周遊状況についてまとめた。

その結果を見ると、和歌山県では「熊野本宮大社」(田辺市)、「アドベンチャーワールド」(白浜町)、「高野山」(高野町)などの主要観光地が満遍なく検索されており、県全域に観光客が周遊していることが読み取れる。また三重県でも、地域差は和歌山県に比べてやや大きいものの、名古屋市に近い北勢地域や国立公園を有する伊勢志摩地域など、幅広い地域に対する検索がみられる。一方で、奈良県では奈良市の主要観光施設への検索が集中しており、県南部の観光地に対する検索は極めて少ない。また、奈良市に近い世界遺産である法隆寺の検索件数も奈良市よりかなり少ない。奈良県観光の課題である奈良市への観光客の集中が、検索データからも裏付けられた(図表5)。

#### (2) 出発地の分析

次に同じメニューを利用して、主な観光地までの経路を検索した人が、どの場所からその検索を行ったかについて見てみる。

このメニューは、検索を行った地点を市町村別に分析できるので、図表5において最近5年間で最も検索件数が多かった2018年のデータから「平日・自動車」の結果を抜粋し、同表の右側にランキングした。なお、検索地点が観光地と同一の市町村である場合は、分析対象から除外した。

和歌山県では、アドベンチャーワールドは大阪市と名古屋市、高野山は大阪市、熊野本宮大社は伊勢市からの検索が多く、テーマパークの集客力や交通アクセス、神社仏閣など共通の観光目的が検索地点に表れている。また県内観光地からの検索も多く、テーマ性を有する県内周遊が、県外客を取り込み行われていることが伺える。

三重県は、伊勢神宮とナガシマスパーランドは大阪市と名古屋市、鳥羽水族館は名古屋市、鬼ヶ城は和歌山県の観光地からの検索が多く、和歌山県と同じくテーマパークの集客力や交通アクセスなどが検索地点に表れている。また県内周遊についても和歌山県ほどではないものの相応に見られる。そして和歌山県、三重県ともに奈良県からの検索は上位5位に見られず、ここに観光地間の周遊の分断を読み取ることができる。

奈良県は、奈良市内の観光地では大阪市、京都市、それ以外では奈良県内の他市町村からの検索が多い。奈良市内は大阪市、京都市との往復、又は京阪神周遊の経路として主に検索されており、奈良市以外の県内観光地の検索件数が少ない要因となっている。また和歌山県、三重県の観光地との周遊があまり行われないことで、県中南部地域に観光客が周遊しない状況が生まれている。

図表5 主要観光地の検索件数と検索地点

観光地名	都道府県名	市町村名	交通手段	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	検索地点(2018年・平日・自動車)	件数	観光地名
東大寺		奈良市	休日 自動車	4,193	4,275	4,597	3,384	2,085	1位 大阪府 大阪市	1,303	
			公共交通	1,246	1,265	1,561	1,757	894	2位 京都府 京都市	1,211	
			平日 自動車	9,995	10,246	10,316	7,733	4,463	3位 斑鳩町	481	東大寺
			公共交通	1,559	1,675	1,892	1,887	1,027	4位 京都府 宇治市	259	
奈良公園		奈良市	合計	16,993	17,461	18,366	14,761	8,469	5位 兵庫県 神戸市	255	
			休日 自動車	5,068	5,415	6,801	5,344	3,166	1位 大阪府 大阪市	1,538	
			公共交通	1,041	1,024	1,044	1,454	708	2位 京都府 京都市	1,254	
			平日 自動車	9,794	10,478	12,855	10,091	6,407	3位 爽知県 名古屋市	994	奈良公園
法隆寺		斑鳩町	公共交通	1,379	1,341	1,261	1,806	883	4位 斑鳩町	372	
			合計	17,282	18,258	21,961	18,695	11,164	5位 兵庫県 神戸市	335	
			休日 自動車	1,732	2,148	2,360	1,850	1,505	1位 奈良市	1,599	
			公共交通	704	813	531	1,108	800	2位 大阪府 大阪市	431	
石舞台古墳		明日香村	平日 自動車	3,873	5,273	5,420	4,323	3,634	3位 京都府 京都市	397	法隆寺
			公共交通	764	947	681	1,131	890	4位 檻原市	130	
			合計	7,073	9,181	8,992	8,412	6,829	5位 京都府 宇治市	120	
			休日 自動車	651	630	740	682	517	1位 奈良市	152	
金峯山寺		吉野町	公共交通	129	122	164	157	101	2位 桜井市	139	
			平日 自動車	1,216	1,239	1,356	1,172	882	3位 檻原市	107	石舞台古墳
			公共交通	129	139	161	149	116	4位 斑鳩町	79	
			合計	2,125	2,130	2,421	2,160	1,616	5位 京都府 京都市	48	
洞川温泉		天川村	休日 自動車	683	529	741	648	526	1位 奈良市	119	
			公共交通	155	163	220	255	180	2位 大阪府 大阪市	77	
			平日 自動車	1,227	948	1,331	1,025	885	3位 檻原市	63	金峯山寺
			公共交通	181	194	254	302	201	4位 桜井市	51	
王置神社		十津川村	合計	2,246	1,834	2,546	2,230	1,792	5位 京都府 京都市	36	
			休日 自動車	678	701	954	610	515	1位 大阪府 大阪市	132	
			公共交通	72	119	136	110	116	2位 奈良市	106	
			平日 自動車	1,206	1,187	1,490	909	779	3位 和歌山県 高野町	60	洞川温泉
			公共交通	97	181	136	156	163	4位 檻原市	48	
			合計	2,053	2,188	2,716	1,785	1,573	5位 吉野町	42	
			休日 自動車	771	958	1,369	1,321	1,295	1位 天川村	239	
			公共交通	77	87	140	191	155	2位 和歌山県 田辺市	234	
			平日 自動車	1,338	1,627	2,267	2,186	2,009	3位 大阪府 大阪市	151	王置神社
			公共交通	114	132	206	330	229	4位 和歌山県 新宮市	84	
			合計	2,300	2,804	3,982	4,028	3,688	5位 三重県 伊勢市	75	
			休日 自動車	4,319	6,160	7,601	6,815	4,417	1位 那智勝浦町	1,315	
熊野本宮大社		田辺市	公共交通	382	465	576	870	532	2位 三重県 伊勢市	1,297	
			平日 自動車	8,242	11,731	14,012	11,328	7,721	3位 白浜町	1,030	熊野本宮大社
			公共交通	503	638	803	1,065	660	4位 新宮市	894	
			合計	13,446	18,994	22,992	20,078	13,330	5位 高野町	764	
アドベンチャーワールド		和歌山県	休日 自動車	12,320	13,323	18,055	10,736	5,480	1位 大阪府 大阪市	2,389	
			公共交通	1,223	1,716	2,380	2,602	1,262	2位 愛知県 名古屋市	2,384	
			平日 自動車	21,947	25,538	33,148	18,633	10,924	3位 和歌山市	2,077	アドベンチャーワールド
			公共交通	1,746	2,558	3,313	3,522	1,714	4位 那智勝浦町	1,002	
高野山		高野町	合計	37,236	43,135	56,896	35,493	19,380	5位 三重県 伊勢市	821	
			休日 自動車	3,523	5,669	7,228	5,452	3,355	1位 大阪府 大阪市	1,196	
			公共交通	460	650	544	793	497	2位 和歌山市	1,077	
			平日 自動車	5,845	10,052	14,101	9,717	5,650	3位 田辺市	880	高野山
			公共交通	524	835	817	1,075	625	4位 白浜町	714	
			合計	10,352	17,206	22,690	17,037	10,127	5位 三重県 伊勢市	658	
			休日 自動車	29,944	31,295	38,386	31,205	18,625	1位 愛知県 名古屋市	5,134	
			公共交通	6,090	7,138	8,330	11,252	6,748	2位 大阪府 大阪市	4,574	
伊勢神宮		伊勢市	平日 自動車	60,239	62,002	65,535	56,451	33,498	3位 鳥羽市	4,046	伊勢神宮
			公共交通	8,470	9,689	11,062	14,241	7,786	4位 志摩市	2,703	
			合計	104,743	110,124	123,313	113,149	66,657	5位 京都府 京都市	1,983	
			休日 自動車	5,139	6,128	7,605	4,737	2,981	1位 伊勢市	1,544	
鳥羽水族館		鳥羽市	公共交通	640	632	671	960	629	2位 志摩市	1,485	
			平日 自動車	10,179	12,201	14,071	8,620	5,954	3位 愛知県 名古屋市	857	鳥羽水族館
			公共交通	868	945	972	1,217	758	4位 鈴鹿市	523	
			合計	16,826	19,906	23,319	15,534	10,322	5位 桑名市	387	
ナガシマスパーランド		桑名市	休日 自動車	9,537	9,541	11,152	7,731	3,728	1位 愛知県 名古屋市	2,981	
			公共交通	1,432	1,652	1,553	2,063	1,075	2位 大阪府 大阪市	920	
			平日 自動車	17,335	18,136	20,453	13,049	7,550	3位 鳥羽市	666	ナガシマスパーランド
			公共交通	2,354	2,529	2,553	3,021	1,499	4位 静岡県 浜松市	516	
鬼ヶ城		熊野市	合計	30,658	31,858	35,711	25,864	13,852	5位 京都府 京都市	480	
			休日 自動車	725	854	962	841	636	1位 紀北町	183	
			公共交通	—	16	37	48	34	2位 和歌山県 那智勝浦町	166	
			平日 自動車	1,872	2,046	2,060	1,685	1,275	3位 伊勢市	133	鬼ヶ城
			公共交通	—	35	56	57	80	4位 和歌山県 新宮市	120	
			合計	2,597	2,951	3,115	2,631	2,025	5位 鳥羽市	76	

#### 検索地点が他府県

(補足) 4月～翌3月の1年間のデータ。観光地名はRESASのもの。

資料出所：株式会社ナビタイムジャパン「経路検索条件データ」より筆者作成

### 3 観光地の特徴から見る新たな可能性

#### 1. 奈良県と和歌山県、三重県との周遊

ここまで本稿で行ってきた量的データの分析では、奈良市内に観光客が集中し、県内の他地域にはほとんど周遊していないと思われることが分かった。これは奈良県の観光客の多くが大阪府や京都府の観光を目的としており、奈良県内の周遊までは想定していないためである。実際に家族旅行など限られた日数で関西方面の旅行を企画する場合、奈良県内を周遊するルートを設定することは珍しいだろう。奈良市内の観光客（潜在客を含む）に県内での周遊旅行をPRすることは、消費者のニーズに合わない提案なのかもしれない。そこで本章では少し視点を変え、奈良県と和歌山県、三重県との周遊観光の可能性について考察する。

#### 2. 計量テキスト分析（テキストマイニング）

##### （1）分析の経緯

奈良県南部は観光客の少ない地域であり、和歌山県、三重県との周遊となるとさらに少なくなる。現在の周遊状況を定量的に把握する方法としては、アンケート調査の結果をもとにした多変量解析などが考えられるが、サンプル数が少ないため有意な分析は困難と思われる。また統計は過去データの分析であり、将来を見据えた新たな戦略を検討する際の活用には限界がある。そこでここでは、このエリアの分析として計量テキスト分析（テキストマイニング）の手法を用いることとした。そして分析に使用するソフトウェアは「KH Coder」を使用することとする。

##### （2）「KH Coder」の概要

計量テキスト分析（テキストマイニング）とは、質的データ（文字データ）をコーディングによって数値化し、計量的分析手法を適用して、データ

を整理、分析、理解する方法である。計量分析することによって、自由回答やテキストデータを読んでいるだけでは気付かない論理的関係を発見できる可能性がある。

「KH Coder」は立命館大学産業社会学部教授の樋口耕一氏が開発したソフトウェアで、分析者の主觀による仮説検証と、多変量解析による客觀性確保の両方を兼ね備えており、論文等でも幅広く活用されている。

##### （3）分析対象のテキストデータ

3県の観光地としての特徴を分析するにあたって使用するデータベースは、「じゃらんnet」の口コミ一覧から作成した。今回分析対象とした観光地は、図表5の観光地をベースに、各県内との他の主要観光地を抜粋し県域全体をカバーするよう追加した（図表6）。

各サンプルの対象期間は、2019年1月から2021年12月までの3年間としたが、各県のサンプル数を同一とするため、一部データを削除して調整した。具体的にはサンプル数の特に多いアドベンチャーワールド・那智の滝（和歌山県）、伊勢神宮内宮・鳥羽水族館・横山展望台（三重県）を古いデータから順に削除し、両県のサンプル数が奈良県と同一となるようにした。その結果、各県のサンプル数は812となった。

図表6 計量テキスト分析の対象とした観光地

奈良県	和歌山県	三重県
東大寺	熊野本宮大社	伊勢神宮内宮
奈良公園	アドベンチャーワールド	鳥羽水族館
法隆寺	高野山	ナガシマスパーランド
長谷寺	奥之院	鬼ヶ城
大神神社	潮岬	伊賀上野城
室生寺	和歌山城	赤目四十八滝
石舞台古墳	龍神温泉	熊野古道（熊野市）
明日香村	熊野古道（海南市）	熊野古道馬越峠
總本山金峯山寺	熊野古道（大門坂）	横山展望台
吉野山	友ヶ島	湯の山温泉
洞川温泉センター	南紀白浜温泉	花の窟神社
みたらし峡谷	那智の滝	
玉置神社		
十津川温泉		
谷瀬の吊り橋		

（注）観光地は「じゃらんnet」の掲載名

資料出所：「KH Coder」の分析結果をもとに筆者作成（以下同様）

#### (4) 本分析におけるコーディングルール

本分析は、奈良県と和歌山県、三重県の観光について、何らかの共通点と相違点があるとの仮説を科学的に検証するために実施した。

分析者が仮説を検証するために作成する基準を「コーディングルール」と呼ぶ。「KH Coder」では、このルール策定に先立ち以下の前処理を実施する必要がある（図表7）。

図表7 「KH Coder」に対する前処理

##### ①複合語の登録

2つ以上の組み合わせで本来の意味となる言葉  
(例) 奈良・公園 → 奈良公園

##### ②未使用語の登録

分析する価値のない言葉  
(例) 見る、思う、行く

##### ③統一表現の登録

意味は同一であるが表現が異なる言葉  
(例) 子供・ちびっ子 → 子供に統一

前処理の実施後、ルール策定の参考とするため口コミの頻出語を抽出した。今回は「KH Coder」のリスト（自動抽出）において、出現数50以上の名詞と形容動詞を抜粋した。なお、人名、地名などの固有名詞は対象外とした。また、頻出語のうち「パンダ」や「水族館」などは各観光地に固有のものであるため、これ以上の分析は行わないとした（図表8）。

その結果、本分析におけるコーディングルール策定の参考になるとを考えた言葉は「図表8」の網掛けとなった。いずれも3県の観光において共通するものの、観光客のとらえ方や感想で差がつくと思われる言葉である。

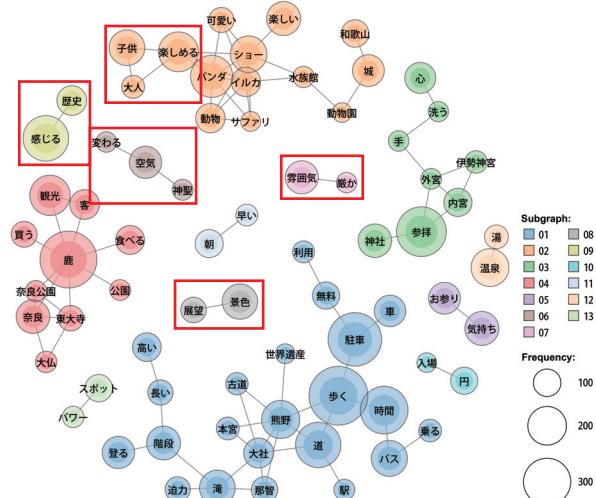
続いて「KH Coder」で同時に出現することの多い言葉のネットワーク（共起ネットワーク）を分析した。ここでは「霧園気－厳か」、「変わら－空気－神聖」、「子供－大人－楽しめる」、「歴史－感じる」、「景色－展望」といったネットワークが確認できた（図表9）。

図表8 ジャラん・口コミの抽出語  
(固有名詞を除く名詞と形容動詞・出現数50回以上)

順位	抽出語	出現数	順位	抽出語	出現数	順位	抽出語	出現数
1	駐車	388	25	感動	100	48	案内	63
2	参拝	335	26	スポット	99	49	利用	63
3	場所	311	26	写真	99	51	パワー	60
4	パンダ	239	28	無料	98	51	拝観	60
5	観光	219	29	自然	93	53	水族館	59
6	温泉	192	30	綺麗	92	53	きれい	59
7	ショーアクション	179	31	参道	89	55	見学	57
8	バス	174	32	展望	86	55	到着	57
9	子供	170	33	散策	85	55	神聖	57
10	景色	167	34	有名	84	58	公園	56
11	気持ち	154	35	迫力	83	58	乗り物	56
12	階段	153	36	土産	81	58	注意	56
13	神社	150	37	満足	79	58	旅行	56
14	霧園気	146	38	時代	76	62	厳か	54
15	感じ	140	39	御朱印	72	63	散歩	53
16	空気	139	40	訪問	71	63	展示	53
17	お参り	135	41	大人	69	65	整備	52
18	大社	119	41	紅葉	69	66	サファリ	51
19	コロナ	119	43	気分	67	66	自分	51
20	歴史	117	43	家族	67	66	世界遺産	51
21	動物	115	45	修学旅行	66	69	価値	50
22	イルカ	114	46	静か	65	69	混雑	50
23	最高	106	47	お寺	64	69	入場	50
24	残念	101	48	境内	63	69	動物園	50

コーディングルール策定の参考となった言葉

図表9 抽出語の共起ネットワーク



(注) 出現数50以上の抽出語についてJaccard係数<sup>注1)</sup>0.1以上の共起を抽出。

#### (5) コード名のクロス集計

頻出語と共にネットワークを踏まえ、観光地をコード名で定義する（図表10）。ここでは3県の共通点と相違点を明確にするため、都道府県別の

図表10 コード名の定義

コード名	主な言葉
日本人のこころ	神聖、厳肅、空気、厳か、莊嚴、信仰
子供連れ	子供、小さい子、ちびっ子
歴史好き	歴史、最古、古都
自然・景観	自然、景観、絶景、景色

クロス分析を行った。また、頻出語として抽出した「温泉」「修学旅行」「世界遺産」についてもあわせて同様のクロス分析を行った（図表 11）。

**図表 11 口コミ件数に対するコード名の出現割合（都道府県別・n = 812）**

	日本人のこころ	子供連れ	歴史好き	自然・景観
奈良県	58 (7.1%)	67 (8.3%)	59 (7.3%)	59 (7.3%)
和歌山県	90 (11.1%)	64 (7.9%)	44 (5.4%)	80 (9.9%)
三重県	141 (17.4%)	92 (11.3%)	21 (2.6%)	118 (14.5%)
合計	289 (11.9%)	223 (9.2%)	124 (5.1%)	257 (10.6%)
カイ2乗値	41.278**	7.000*	18.676**	23.342**

	温泉	修学旅行	世界遺産
奈良県	38 (4.7%)	50 (6.2%)	16 (2.0%)
和歌山県	43 (5.3%)	1 (0.1%)	33 (4.1%)
三重県	31 (3.8%)	6 (0.7%)	5 (0.6%)
合計	112 (4.6%)	57 (2.3%)	54 (2.2%)
カイ2乗値	2.04	78.360**	22.612**

#### （6）分析結果をもとにした考察

##### ① 3県の共通項目

「図表 11」のカイ2乗値<sup>注2)</sup>からは、「温泉」の口コミ出現について、3県で明確な差は確認できなかった<sup>注3)</sup>。和歌山県と三重県は主要観光地が温泉地で、奈良県南部も県内では温泉資源に恵まれた地域であることから、「温泉」を共通テーマとした3県の周遊観光が成り立つ可能性がある。

##### ② 奈良県での出現割合が高い項目

奈良県において出現割合が高い項目としては「歴史好き」「修学旅行」が、三重県と比べると「世界遺産」が挙げられる。「修学旅行」は他2県に比べて突出しているが、口コミを見ると「修学旅行以来の訪問」などポジティブな内容ではない。一方でそれに続く口コミは、新たな発見に対する感動など奈良を評価するものが多い。その点では県南部のポテンシャルは高いと思われるが、単独で観光の目的地となるにはハードルが高い。そこで両県との周遊を考えることとなるが、その切り札が前述の「歴史」や「世界遺産」となる。特に奈良県と同様に口コミの出現割合が高い和歌山県からの周遊のポテンシャルが高いだろう。

##### ③ 奈良県での出現割合が低い項目

奈良県において出現割合が低い項目としては、「日本人のこころ」「自然・景観」が挙げられ、「子供連れ」も相対的に低い。この3項目は三重県が高く、「日本人のこころ」は伊勢神宮や熊野古道が、「子供連れ」はナガシマスパーランドや鳥羽水族館の影響が大きい。また「自然・景観」については海の有無が影響しているのだろう。

テーマパークや水族館は奈良県の観光資源との親和性が少ないが、神社仏閣や自然に関しては、3県周遊の共通テーマとなり得る有望なコンテンツと考えられる。また、和歌山県、三重県の海と奈良県の山を組み合わせた周遊などは、奈良県の自然を際立たせる可能性があるだろう。

## 4 周遊観光の促進に向けた提言

### 1. 的確なターゲットに対するストーリー展開

ポストコロナの奈良県観光のあるべき姿は、コロナ前の観光地の姿を取り戻すことではない。3県の口コミからは外国人観光客のマナーに対する苦情が散見され、奈良県の観光地のものが3県の中では特に多かった。奈良県の外国人観光客は大阪府での買い物ついでの日帰り客が多く、観光地の本来の価値に対する理解不足から日本人観光客、さらには地元住民との軋轢につながったと考えられる。ポストコロナではそのような課題の解決と並行し、地方創生・地域活性化に資する持続可能な観光を地域に根付かせていく必要がある。

奈良県観光の質を高める手がかりは、前章のコード名でいえば「歴史」「世界遺産」にある。奈良県の観光資源を深く理解する人が県内を周遊すれば、観光地でのマナーも遵守すると思われる。また奈良県は子供向けの観光地とは言えないが、教

育の面からは素材に恵まれている。家族旅行がかけがえのない思い出となり、将来新たな魅力の発見を目指し再訪してくれるだろう。外国人については熊野古道の巡礼者が奈良県観光との相性が良い。滞在期間の長い欧米からの巡礼者を取り込めば、県内周遊のチャンスも広がるだろう。

## 2. 自治体の垣根を越えた取組み

奈良県南部と和歌山県、三重県は、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」など面的なつながりを持つが、これらの観光プロポーションは、各自治体が自県の観光資源を中心に行なうことが多く、県境をまたいだ広域周遊の魅力はあまり発信されていない。その役割は DMO が担うべきところであるが、自治体の意向が強く反映される DMO も多く、当該地域の着地型観光には強みを發揮するが、県境をまたいだ周遊観光推進の動きは弱い。

民間企業の取組みとしては、株式会社日本ユニスト（大阪市）が熊野古道の参詣道「中辺路」沿いに地方創生を理念とした町宿「SEN.RETREAT」をつくるプロジェクトが興味深い。中辺路は巡礼に4～5日間を要する長距離ルートで、宿泊施設の不足が課題となっていたが、同ブランドの宿が道中に4か所できることで、巡礼者の利便性は改善される。宿はすべて和歌山県内であるが、熊野古道沿いを意識したもので和歌山県に限定した取組みではない。

また、同社の取組みで特筆すべきは地方創生・地域活性化へのこだわりであろう。地元食材の提供や地域雇用の推進は、過疎地域で事業を継続していく上で重要な要素であり、地域の観光拠点としての役割が期待される。民間企業のこのような取組みが、広域周遊観光促進の起爆剤になると思われる。



SEN.RETREAT TAKAHARA (2021年10月開業) (左)、熊野古道 (右)

## 3. 交通アクセスに関する情報発信

広域周遊観光の交通手段は主に自家用車やレンタカーであるが、遠方からの観光客にとって紀伊半島の山道運転への心理的抵抗は大きい。実際はこの3県を周遊する主要道路はほとんどが片側1車線以上に整備されており、冬場を除き運転には支障がない。その点を広くPRすることが、旅行先として選ばれる意外な要素になるかもしれない。

広域周遊観光はポストコロナの観光のキーワードの一つで、奈良県観光の質を高める重要なコンテンツである。本稿がこれまでの観光振興に一石を投じる提言になれば幸甚である。

(秋山利隆)

### 【注釈】

注1) 2つの言葉のいずれかが含まれている文書のうち、2つの言葉の両方が含まれている文書の割合。あくまで目安ではあるが、0.1以上で「関連がある」とされる。

注2) カイ2乗 ( $\chi^2$ ) 検定は、独立性や一様性の検定などに利用される方法。今回は「奈良県、和歌山県、三重県の数値に差がない」という帰無仮説の棄却の可否を検定した。「\*」は帰無仮説を有意水準5%で棄却、「\*\*」は同1%で棄却、「\*なし」は棄却できないことを表す。

注3) ある仮説に対して、与えられたデータからその正しさを統計的に考察することを仮説検定という。仮説検定では、ある事象が発生しない確率である帰無仮説 ( $H_0$ ) と、その対となる対立仮説 ( $H_1$ ) をおき、帰無仮説が発生する可能性が低い場合に帰無仮説は正しくないとして棄却し対立仮説を採択する。本文では5%水準で帰無仮説「3県に差がない」を棄却できず、対立仮説「3県に差がある」は採択しない。

### 【参考資料】

樋口耕一著「社会調査のための計量テキスト分析」  
ナカニシヤ出版。